

沖縄県医師会 在宅医療・介護連携研修の取り組み

沖縄県医師会 山里将進



沖縄県在宅医療連携体制整備事業

- 事業区分
 - 沖縄県地域医療再生計画(平成24年度補正予算)事業
- 実施期間
 - 平成26年4月1日～平成28年3月31日
- 事業概要
 - 多職種協働による在宅医療連携体制を構築するとともに、沖縄県医師会が構築する「おきなわ津梁ネットワーク」の機能を拡充し、医療機関、歯科、薬局、地域の介護福祉サービス等との健康情報の共有化を図り、高齢者の状態に応じた、切れ目のない、医療や介護サービスの提供を図る。

沖縄県在宅医療連携体制推進委員会

- 目的

- 沖縄県在宅医療連携体制推進委員会は、沖縄県の在宅医療の効果的な推進及び実践を行うとともに、多職種による課題の抽出や解決策を検討すること等を目的に設置するものとする。

- 検討事項

- 在宅医療の効果的な多職種連携に関すること
- 在宅医療の普及啓発に関すること
- その他の在宅医療の推進に関すること

- 構成

- 行政関係者、医療・福祉関係団体、学識経験者、その他在宅医療の推進に必要と認める者

沖縄県在宅医療連携体制推進委員会

		所属	役職	指名
1	委員長	沖縄県医師会	監事	山里将進
2	副委員長	沖縄県歯科医師会	会長	比嘉良喬
3	副委員長	浦添市医師会	理事	大濱篤
4	副委員長	那覇市医師会	理事	喜納美津男
5	幹事	沖縄県看護協会	常務理事	川満幸子
6	幹事	沖縄県薬剤師会	理事	笠原大吾
7	幹事	沖縄県栄養士会	理事	吉田陽子
8	幹事	沖縄県介護支援専門員協会	会長	大城則子
9	幹事	沖縄県地域包括・在宅介護支援センター協議会	副会長	大城初美
10	幹事	沖縄県医療ソーシャルワーカー協会	会長	樋口美智子
11	幹事	沖縄県理学療法士協会	副会長	神谷之美
12	幹事	沖縄県作業療法士会	会長	比嘉靖
13	幹事	沖縄県訪問看護ステーション連絡協議会	訪問看護認定看護師	下地節子
14	委員	沖縄県医師会	理事	比嘉靖
15	委員	北部地区医師会	監事	鍛司
16	委員			名嘉真透
17	委員	中部地区医師会		西平守樹
18	委員		理事	玉城浩
19	委員	南部地区医師会	常任理事	湧上民雄
20	委員	宮古地区医師会	副会長	下地晃
21	委員	八重山地区医師会	副会長	吉俣哲志
22	委員	沖縄県保健医療部保健医療政策課	課長	大城直人
23	委員	沖縄県子ども生活福祉部高齢者福祉介護課	課長	上地幸正
24	委員	沖縄県介護保険広域連合	地域支援係長	金城温大

沖縄県在宅医療連携体制整備事業

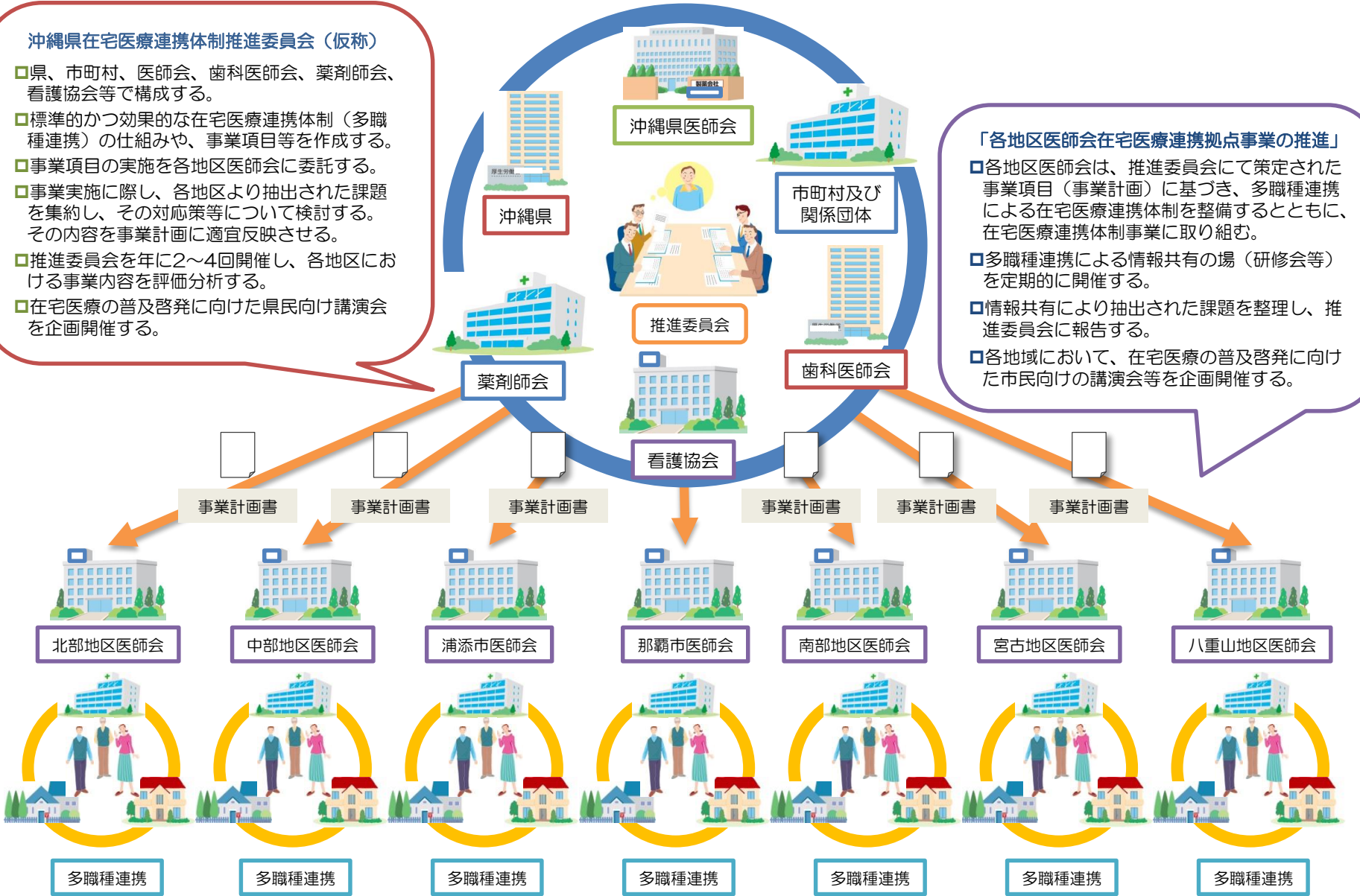
沖縄県在宅医療連携体制推進委員会

沖縄県在宅医療連携体制推進委員会（仮称）

- 県、市町村、医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会等で構成する。
- 標準的かつ効果的な在宅医療連携体制（多職種連携）の仕組みや、事業項目等を作成する。
- 事業項目の実施を各地区医師会に委託する。
- 事業実施に際し、各地区より抽出された課題を集約し、その対応策等について検討する。その内容を事業計画に適宜反映させる。
- 推進委員会を年に2～4回開催し、各地区における事業内容を評価分析する。
- 在宅医療の普及啓発に向けた県民向け講演会を企画開催する。

「各地区医師会在宅医療連携拠点事業の推進」

- 各地区医師会は、推進委員会にて策定された事業項目（事業計画）に基づき、多職種連携による在宅医療連携体制を整備するとともに、在宅医療連携体制事業に取り組む。
- 多職種連携による情報共有の場（研修会等）を定期的で開催する。
- 情報共有により抽出された課題を整理し、推進委員会に報告する。
- 各地域において、在宅医療の普及啓発に向けた市民向けの講演会等を企画開催する。



在宅医療連携拠点事業の7つのタスク

①地域の医療・福祉資源の把握及び活用

- 地域の医療機関の分布、医療機能を把握し、地図又はリスト化
- 更に連携に有用な項目(在宅医療の取組状況、医師の相談対応が可能な日時等)も調査し、関係者に配布、ネット上に公表
- ※ネット上への公表は県医師会にて実施

②会議の開催

- 関係者が集まる会議を開催し、地域の在宅医療・介護の課題を抽出し、解決策を検討

③研修の実施

- グループワーク等の多職種参加型研修の実施
- 訪問診療同行研修の実施
- 医療機器に係る研修等の座学
- 介護職種を対象とした医療教育に関する研修等

④24時間365日の在宅医療・介護提供体制の構築

- 緊急入院受け入れ窓口の設置
- 主治医・副主治医制のコーディネート等

⑤患者・家族や地域包括支援センター・ケアマネジャーを対象にした相談窓口の設置

- 患者・家族、地域包括支援センターやケアマネからの在宅医療・介護に係る総合的な問い合わせへの対応

⑥効率的な情報共有のための取組

- 地域の在宅医療・介護関係者の連絡のための様式・方法の統一

⑦地域住民への普及啓発

- 地域住民を対象にしたシンポジウムの開催
- パンフレット、チラシ、区報、ホームページ等を活用
- 地域住民に対する在宅医療相談窓口の設置(市の施設への設置、病院への設置)
- ※相談窓口の設置は地区医師会にて実施

地区医師会 実施事業

①②③は必須
項目として実施

県医師会 実施事業

在宅医療・介護連携コーディネーターの配置

- 本会では、在宅医療・介護連携拠点として、在宅医療・介護連携コーディネーターを配置している。
- 在宅医療・介護連携コーディネーターは、在宅医療・介護連携事業の標準化・均等化を図るため、非常に重要な役割を担っている。
- 主な役割
 - 市町村や地域包括支援センターとの連携
 - 地域の医療・介護関係者による協議への参加
 - 多職種による研修会の企画立案・運営
 - 在宅医や関係職種との連絡調整機能
 - 在宅医療に関する人材育成や普及啓発

在宅医療・介護推進のための 多職種連携研修会の取り組み



沖縄県在宅医療連携体制推進委員会

在宅医療・介護推進のための地域における多職種連携研修会

<実施要領①>

- 目的

- 沖縄県内の各地域において均てん化された在宅医療の推進及び多職種連携の促進を研修会の目的とする。また、かかりつけ医の在宅医療参入の動機づけ、市町村を単位とする多職種によるチームビルディングの促進を図る。

- 研修内容

- 研修内容は、以下のプログラムの全てもしくは一部を盛り込むものとする。
 - ① 在宅医療が果たすべき役割
 - ② 在宅ケアにおける多職種連携・協働の必要性
 - ③ 領域別テーマ（認知症、がん、緩和ケア、口腔ケア、リハビリ、栄養、褥瘡、その他）
 - ④ 在宅医療に関わる報酬や制度
 - ⑤ 訪問診療の実際
 - ⑥ 在宅医療を推進する上での課題とその解決策

沖縄県在宅医療連携体制推進委員会

在宅医療・介護推進のための地域における多職種連携研修会

＜実施要領②＞

- 単位型研修

- 研修対象者は、所在する市町村にかかわらず、「研修内容」で示した研修プログラムについて、沖縄県内各地で実施される研修会で受講することができる。
- 研修対象者がどの地区の研修会でも受講可能とするために、沖縄県在宅医療連携体制推進委員会は統一の「受講票」を発行する。

- 修了証書(修了証)の発行

- 沖縄県在宅医療連携体制推進委員会は、「研修内容」で定めるプログラムを全て受講し、研修を修了したと認められる者について、在宅医療連携体制推進委員長名で修了証書を発行する。

研修受講票

沖縄県在宅医療連携体制推進委員会

研修受講票

平成27年度前期
研修会名称： 在宅医療・介護推進のための多職種連携研修会

主催： 一般社団法人 浦添市医師会

開催日： 平成27年9月27日(日)

所属： _____

氏名： _____

職種： _____

<研修カテゴリー>

(領域別テーマ) 認知症

(領域別テーマ) 口腔ケア

貴殿は標記研修を受講したことを証明する。

平成 27 年 9 月 27 日

一般社団法人 浦添市医師会

会 長 池 村 剛



研修修了証書

修了証書

〇 〇 〇 〇 殿

貴殿は沖縄県在宅医療連携体制推進委員会
の実施する各地区医師会主催による「在宅医
療・介護推進のため多職種連携研修会」を受
講し全プログラムを修了したことを証しま
す

今後沖縄県の在宅医療の推進に寄与される
ことを期待します

平成 28 年 3 月 31 日

沖縄県在宅医療連携体制推進委員会

委員長 山里 将進

在宅医療・介護推進のための地域における多職種連携研修会

主催：八重山地区医師会 共催：石垣市

日時：平成27年7月11日(土)14:00～17:40

場所：八重の杜ホール

参加者：106名

時刻	タイトル	講師等	分類	時間
14:00	主催者代表挨拶	上原 秀政 (八重山地区医師会 会長)		5
14:05	挨拶	中山 義隆 (石垣市長)		5
14:10	「在宅医療に関わる報酬や制度」 「在宅医療が果たすべき役割」 「在宅ケアにおける多職種連携・協働の必要性」	山里 将進 (かじまやークリニック院長)	講義	40
休憩				10
15:00	八重山地区における訪問診療の実際①	今村 昌幹 (県立八重山病院)	講義	20
15:20	八重山地区における訪問診療の実際②	吉俣 哲志 (石垣島徳洲会病院長)	講義	20
休憩				10
15:50	多職種連携協働の今日的意義と グループワークの進め方	大濱 篤 (まちなと内科在宅クリニック院長)	講義	30
16:20	(グループワーク) 「在宅医療を推進する上での課題とその解決策」		演習	70
17:30	総括・アンケート記入	山里 将進 (かじまやークリニック院長)		10
17:40	閉会挨拶	今村 昌幹 (県立八重山病院)		

職種	人数
医師	2名
歯科医師	4名
看護師	23名
薬剤師	4名
保健師	4名
栄養士	4名
理学療法士	7名
作業療法士	1名
言語聴覚士	1名
MSW	5名
介護支援専門員	29名
介護福祉士	15名
生活相談員	1名
施設長	2名
医療事務	1名
計	106名



研修会参加者の感想（八重山地区）

- 多職種顔を合わせる機会をありがとうございます。在宅医療が一步でも進められます。
- 今年度で予算終了と聞きましたが、継続していただきたいです。
- 多職種でのカンファレンス、勉強会、意見交換会はとても有意義だと思います。
- このような研修に初めて参加しましたが、今後も多職種の方と交流できる場へどんどん顔を出してみようと思いました。
- 地域性をもっと活かして顔が見える今回のような研修を重ね、もっと理解を深め、良い連携が取れるようにしたい。
- いろいろな職種を目線や問題意識を知ることができ刺激になりました。課題解決のためには、顔が見える関係性が必要と改めて思いました。

在宅医療を推進するための課題と今後の解決策をテーマに議論する参加者ら=11日午後、八重の杜ホール



在宅医療の重要性確認 石垣市で多職種連携研修会

在宅医療や介護推進を目的とした地域における多職種連携研修会(八重山医師会主催)が11日午後、サイバス付き高齢者向け住宅八

重の杜ホールで開かれ、看護士やケアマネジャーなど13職種約100人が参加した。同研修会は県在宅医療連

携体制推進員会がかかり、医師の在宅医療参入の動機づけや、市町村単位での多職種によるチーム作りを促進するため開いている。参加者は、在宅医療や八重山における訪問診療の実情について講義を受けた後、6〜8人一組でグループワークを行い、「在宅医療を推進する上での課題とその解決策」をテーマに、課題をKJ法でまとめ上げ、職種ごとに何ができるか議論、発表した。薬剤師の岡林薫さん(37)は「今後、病院のベッドはさらに不足し、在宅医療が必要になってくる。在宅医療の重要性が再確認できた」と述べた。管理栄養士の仲道愛子さん(46)は「本島の研修会に参加したことがあり、石垣でもやってほしいと

今年1月から運営がスタートしている与那国馬場ゆう広場。手前の建物は給餌棟=7日午前(田原政英と那国通信員撮影)

の飼育が幅広く行われるようになってきている。任意団体の保存会では広場の運営が難しく、専門の団体に運営

講師の石垣さんから八重山の年中行事について話を聴く受講生ら=11日午前、八重山博物館

思っていた。地域と職種が連携するきっかけになれば」と希望の研修会開催に喜んだ。在宅医療について講義した浦添市のかじまやークリニックの山里将進理事長は「職の垣根を越えて、意見を述べ合うことが大事。さらに多くの職種を巻き込んで今後も開催していきたい」と話した。

平成27年7月12日
八重山毎日新聞

在宅医療・介護推進のための地域における多職種連携研修会

主催:宮古地区医師会 共催:宮古島市

日時:平成27年9月13日(日)14:00~18:00

場所:JAおきなわ 宮古地区本部2階大ホール

参加者:51名

時刻	タイトル	講師等	分類	時間
13:40	情報提供 (情報共有ツールの紹介)	(株)TEIJIN		0:15
13:55	小休止			0:05
14:00	主催者代表挨拶	池村 眞 (宮古地区医師会 会長)	挨拶	0:05
14:05	挨拶	下地 敏彦 (宮古島市長)	挨拶	0:05
14:10	「在宅医療に関わる報酬や制度」 「在宅医療が果たすべき役割」	山里 将進 (かじまやクリニック院長)	講義	0:40
14:50	機器準備			0:05
14:55	宮古地区における訪問診療の実際	竹井 太 (うむやすみやあす・ん診療所 院長)	講義	0:30
15:25	休憩			0:10
15:35	多職種連携協働の今日的意義と グループワークの進め方	大濱 篤 (まちなと内科在宅クリニック院長)	講義	0:30
16:05	グループワーク 「在宅医療を推進する上での課題とその解決策」		演習	1:10
17:15	総括および受講証書発行・アンケート記入	山里 将進 (かじまやクリニック院長)		0:10
17:25	閉会挨拶	池村 眞 (宮古地区医師会 会長)	挨拶	0:05

職種	人数
医師	2名
歯科医師	1名
看護師	7名
薬剤師	3名
保健師	4名
栄養士	5名
理学療法士	5名
作業療法士	4名
社会福祉士	3名
介護支援専門員	6名
管理者・生活相談員	3名
医療事務	3名
臨床検査技師	1名
行政職	2名
歯科衛生士	1名
鍼灸師(学生)	1名
計	51名

17:30 終了予定時間

※プログラムは変更する場合がございます。



研修会参加者の感想（宮古地区）

- 医療面（在宅医療）からみた現状と課題、これからについていろいろと学ぶことができた。
- 診療報酬の変化の流れと今後の見通しについて、改めて整理することができて良かったです。
- 同じ職種のリ研修会は多いが、多職種との研修は少ないのでまたやってほしい。
- 多職種の方たちと意見を交換し合えるこのような場所こそがとても貴重な方策だと思います。
- グループワークは素晴らしい勉強法だと聞いてはいたが、やってみて他の人の意見や話のまとめ方、発表の仕方も良かったが、もっと良いのは宮古の課題が見えてきて良かったです。

「治す」から「治し、支える」へ



宮古地区における「在宅医療」の充実化を目指す開催された研修会=13日、J.Aおきなわ宮古地区本部



講演する山里将進院長

宮古地区医師会主催の「2015年度（前期）在宅医療・介護推進のための多職種連携研修会」が13日、J.Aおきなわ宮古地区本部で開催された。浦添市で先進的な在宅医療に取り組み「かじまやクリニック」の山里将進院長が講義を行い、「治す医療」から「治し、支える医療」を目指す、地域における多職種の組織作り、真の地域包括ケアを目指すことが呼び掛けられた。

多職種の連携、組織化を 「在宅医療・介護推進」研修会

主催者を代表して池村眞 会長は「宮古市も65歳以上人口が30%を超えており、必然的に在宅医療、在宅療養を希望する人が増えると思う。さきうの研修会を通して市の在宅医療の質を高めることにつなげてほしい」と呼び掛けた。

山里院長は、住まいと医療福祉ハイブリッドシステムあり、高齢化が進む宮古市にとって在宅医療の充実が最大の課題。各分野が濃く、時間型の在宅有業「護守」を掲げ、在宅医療取り組む山里院長は、在宅医療の課題について、訪問医療を上人口が30%を超えており、必然的に在宅医療、在宅療養を希望する人が増えると思う。さきうの研修会を通して市の在宅医療の質を高めることにつなげてほしい」と呼び掛けた。

山里院長は、住まいと医療福祉ハイブリッドシステムあり、高齢化が進む宮古市にとって在宅医療の充実が最大の課題。各分野が濃く、時間型の在宅有業「護守」を掲げ、在宅医療取り組む山里院長は、在宅医療の課題について、訪問医療を上人口が30%を超えており、必然的に在宅医療、在宅療養を希望する人が増えると思う。さきうの研修会を通して市の在宅医療の質を高めることにつなげてほしい」と呼び掛けた。

平成27年9月14日
宮古毎日新聞

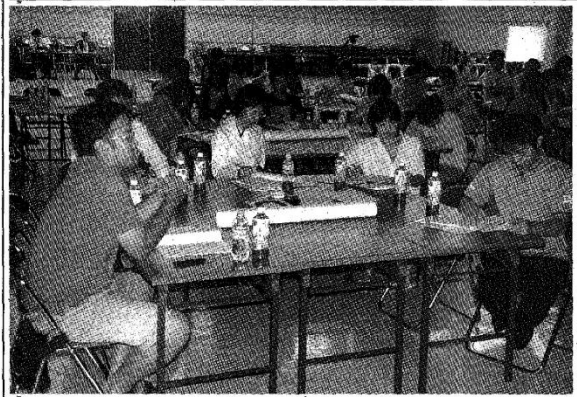
宮古地区医師会

在宅医療・介護推進へ連携

山里さんから講話 課題、解決策で意見交換

2015年度前期の「在宅医療・介護推進のための多職種連携研修会」（主催・宮古地区医師会）が13日、J.Aおきなわ宮古地区本部大ホールで行われた。浦添地区医師会の在宅医療ネットワークを立ち上げ、積極的に在宅医療に関わっている山里将進さん（かじまやクリニック院長）が在宅医療制度の変遷を説明し、「治す医療」から「治し、支える医療へ」を強調した。研修会には医師、歯科医師、保健師、看護師、介護支援専門員、栄養士などが参加し熱心に耳を傾けた。

山里さんは、後期高齢者の急増などにより認知症高齢者や一人暮らし、夫婦のみ世帯が増えていくなかで



山里さんの在宅医療の課題などについての話に耳を傾ける参加者たち=13日、J.Aおきなわ宮古地区本部大ホール

在宅医療（ケア）の概念の直しが行われていることを見直しや介護保険制度の見直しを説明した。在宅医療の課題

には▽訪問診療する意欲のある医師の拡大▽在宅医療を担う医師のグループ化▽在宅医療の連携を支えるチーム作りのコーディネート役▽住民の意識啓発を挙げた。

24時間患者を支える在宅医療を含めた地域包括ケアについては国の改革の流れが明確であることを示した上で、「サービス付き高齢者向け賃貸住宅」、「24時間型の在宅看護介護サービス」、「在宅医療連携拠点の整備」を呼びかけた。

そのほか竹井太さん（うむやすみあす・ん診療所院長）が「宮古地区における訪問診療の実際」、大濱篤さん（まらなど内科在宅クリニック院長）が「多職種連携協働の今日的意義とグループワークの進め方」で講話した。参加者によるグループワークでは「在宅医療を推進する上での課題とその解決策」のテーマで意見を交わした。

平成27年9月15日
宮古新報

同研修会は、県内各地で格差のない標準化された在宅医療の推進及び多職種連携の促進やかかりつけ医の在宅医療参入の動機づけ、市町村を単位とする組織化の促進を図ることを目的に開催された。

冒頭では主催者の池村眞 会長が在宅医療の重要性を強調し、「職種の違う方々が考え抜くことは意義がある」とあいさつし、下地敏彦市長は在宅医療の向上に向けた活発な意見交換に期待を込めた。

ビ▽在宅医療連携拠点の動機づけ、市町村を単位整備などを呼び掛けた。とする職種による組織化の促進を目的に実施された。そのほか、うむやすみあす・ん診療所の竹井太院長が「宮古地区における訪問診療の実際」をテーマに、会場には、医師、看護師、保健師、作業療法士などが参加し、講義の内容に真剣な表情で聞き入り、たほかグループ討議は、宮古市において在宅医療を推進する上での課題や解決策について意見を交換した。

在宅医療・介護推進のための地域における多職種連携研修会

主催：浦添市医師会 共催：浦添市、浦添市介護支援専門員連絡会

日時：平成27年9月27日(日)13:00～18:00

場所：浦添市社会福祉センター3階大研修室

参加者：163名

時刻	タイトル	講師等	分類	時間(分)
13:00	主催者代表挨拶(浦添市医師会)	池村 剛 (浦添市医師会会長)		5
13:05	挨拶(浦添市)	松本 哲治 (浦添市長)		5
13:10	浦添市の認知症施策について	松原 枝里子 (浦添市地域支援課 保健師)	講義	20
小 休 憩				5
13:35	領域別セッション① ・認知症への理解 ～ コウノメソッドを中心に 行動心理徴候(BPSD)への対応～ ・認知症の心理的ケア	城間 清剛 (城間クリニック院長)	講義	25
			演習	90
			ミニ レクチャー	5
休 憩				15
15:50	領域別セッション② ・在宅での口腔ケア ～ 多職種で行う食支援～	高良 孔明 (高良歯科医院副院長)	講義	20
			演習	85
			ミニ レクチャー	15
17:50	アンケート記入			5
17:55	総括(共催者代表)	大嶺 淳子 (浦添市介護支援専門員連絡会会長)		5

18:00 閉会

職種	人数
医師	7名
歯科医師	7名
看護師	19名
薬剤師	8名
保健師	5名
栄養士	2名
理学療法士	18名
作業療法士	9名
言語聴覚士	2名
歯科衛生士	3名
MSW	15名
介護支援専門員	37名
介護福祉士	19名
管理者・生活相談員	5名
認知症地域支援推進員	2名
保健相談員	2名
その他	3名
計	163名



インターネットを活用し
宮古島に1グループを設置して
2地点相互の同時中継

宮古島 高齢者福祉の推進
宮古島市高齢者福祉推進協議会
宮古島市高齢者福祉推進協議会
宮古島市高齢者福祉推進協議会

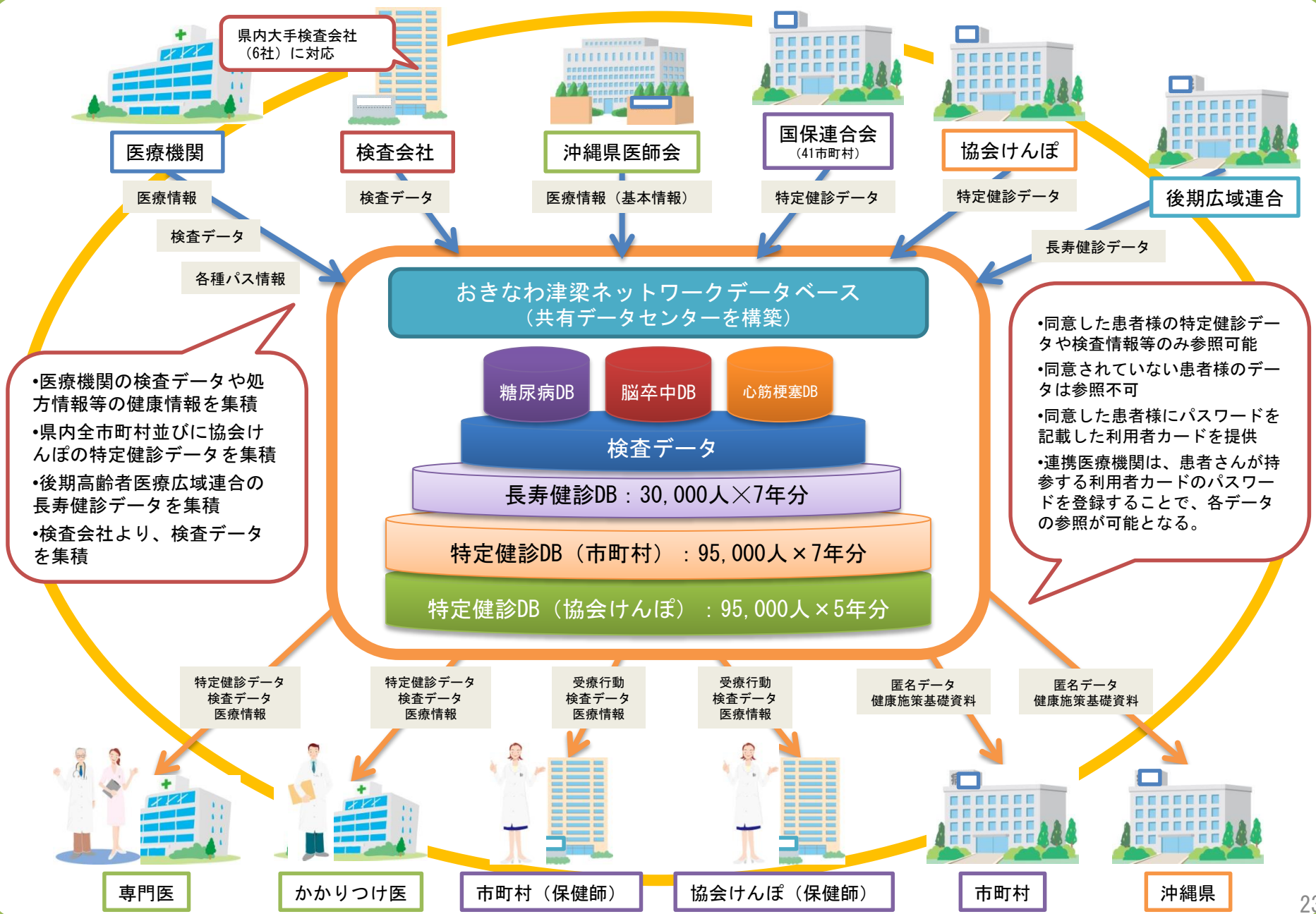
認知症の基礎
1. コウノメンゴ 超入門
2. 事例検討
3. 認知症の心理的ケア
協賛クリニック 協賛 協賛 協賛



おきなわ津梁ネットワークの取り組み



おきなわ津梁ネットワークのデータ集約イメージ





医療情報参照 (フェイスシート)

患者基本情報

患者の基本的な情報を表示します。また、検査結果などより患者状態を表示し把握することができます。

患者状態

患者の各疾病パスの有無及び状態が表示されます。

(その他各種情報)

患者さんに紐づく各種医療情報及び、在宅医療に関する情報を確認する為の機能となります。

検査情報

検査情報は直近3回分の結果を表示します。検査値で異常がある場合、背景色を変え、すぐに異常を見つけることができます。

スケジュール情報

カレンダーのスケジュール情報を表示します。

文書

登録した直近の書類をボタン表示し、押下するとファイルが表示されます。

お知らせ情報

患者さんに関連するお知らせ情報を表示します。

検査結果グラフ

検査結果をグラフ表示し、直感的に患者の状態変化を把握することができます。また、「設定」より表示する回数、項目を登録できます。

調剤情報


直近の調剤情報及び処方情報を紐付けて一覧表示します。

注意事項：上記の画面（黄色枠）は、職種の権限によっては、閲覧できる情報が異なる場合があります。予め、ご了承下さい。



調剤・処方

患者さんの医療情報より、お薬に関する情報を表示する画面となります。

戻る  おきなわ津梁ネットワーク
Okinawa Shinryo Network

ユーザー > 管理者 太郎管理者 所属病院 > センター ログアウト

メニュー 患者情報詳細

トップ フェイスシート > 調剤・処方 > 調剤・処方・残薬状況

患者基本情報 > 全てを表示 アレルギー > 全てを表示

+  **アオヤギ チハル**
青柳 千春 70歳 女性

生年月日 昭和20年6月3日
メタボ診断 非該当 

アレルギー: **アトピー性皮膚炎**
卵白アレルギー (オボムコイ)

調剤・処方 残薬状況

処方	津梁クリニック	調剤	おきなわ薬局
処方日	2015/07/31	調剤日	2015/07/31
用法/処方一般名		服用期間/調剤薬品	量/日
分1 朝食後		服用期間: 7/31~9/4	35日分
ランソプラゾール口腔内崩壊錠15mg		ランソプラゾールOD錠15mg「トーワ」	1錠
フロセミド錠 20mg		フロセミド錠20mg「テバ」	1錠
インダパミド錠 1mg		ナトリックス錠1 1mg	1錠
アルファカルシドールカプセル1■		アルファカルシドールカプセル1■「サワイ」	1cap
バルサルタン錠 160mg		バルサルタン錠160mg「サンド」	1錠
シタグリブチンリン酸塩水和物 50mg		ジャヌビア錠50mg	1錠
ピオグリタゾン錠15mg		ピオグリタゾン錠15mg「サワイ」	1錠
分2 朝夕食後		服用期間: 7/31~9/4	35日分
塩酸フェキソフェナジン錠 60mg		フェキソフェナジン塩酸塩錠60mg「KN」	2錠
メトホルミン塩酸塩錠 (2) 500mg		メトグルコ錠500mg	2錠

処方・調剤情報

実際に薬局で調剤された情報と病院で処方された情報を合わせて参照することが可能です。

医薬品、剤形、使用量、単位、用法、調剤数量、また、服用期間を表示します。
(ORCA/NSIPS連携情報)

注意事項：上記の画面の詳細は、今後、変更なる場合があります。予め、ご了承下さい。



カレンダー機能

患者さんに関わる活動記録（訪問メモ）の確認画面となります。

トップ フェイスシート > カレンダー

患者基本情報 > 全てを表示 アレルギー > 全てを表示

+
 **アオヤギ チハル**
青柳 千春 70歳 女性
生年月日 昭和20年6月3日

アレルギー
アトピー性皮膚炎
卵白アレルギー（オボムコイド）

2015年8月

< 今月 > 一覧表示

日	月	火	水	木	金	土
26	27 ✔ 11:00 訪問指導 ✔ 13:00 服薬管理指導	28 ✔ 20:07 会議	29 ☞ 19:48 訪問	30	31	1
2	3	4	5	6 📄 計画書 サービス 計画について.doc ☞ 19:37 青柳さん宅 訪問	7	8
9	10 📄 報告書 Frangipani Flowers.jpg	11	12 ✔ 13:30 訪問リハ	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22



津梁トーク（双方向チャット機能）

患者さんに関わる関係者同士のコミュニケーションの画面となります。

戻る おきなわ津梁ネットワーク Okinawa Shinryo Network ユーザー：理学 三郎 所属病院：津梁病院 ログアウト

メニュー 患者情報詳細

トップ フェイスシート（津梁トーク）

▼患者基本情報 ※ 全てを表示 アレルギー ※ 全てを表示

津梁トーク（13） ▼ 医師：医師 一太郎 医師：医師 二郎 医師：医師 三郎 社会福祉士：医療 次郎 管理…

6/27(土)

医師
6/26に青柳さんを訪問しました 13:10

6/29(月)

介護支援専門員 支援 裕子
看護師です 16:38

画像 送信

※ 各職種の方は、患者様の「サービス担当者登録」後に利用が可能です。サービス担当者登録の権限は、別途、記載しています。 27

今後の課題

- かかりつけ医の在宅医療への新規参入をどう促すか
 - 在宅医療の現場を体験するための同行研修の実施
 - 主治医・副主治医制の確立
 - 訪問看護ステーションとの連携強化
- 在宅医療・介護連携コーディネーターの配置及び育成
- コーディネーター配置や研修会運用等の継続的な予算措置